食事作法（　）：食事の

：

明:神のご 悦につながる事柄について。

目: 事宗 行 とその 践スラ ム的モラルと

より: ア イシャ ステイシ

日18 Nov 2013

集日 18 Nov 2013

ムスリムはいかなる行 に しても、神の御名に言及します。それは、「ビスミッラ （神の御名のもとに）」という言 で、人生を えるような瞬 であれ、手洗いや食事のような日常生活のありふれた行 であれ、それによって神の祝福を求めます。そしてムスリムが食事を えたときに言う最初の言 は、神への称 と感 なのです。それは「アルハムドゥリッラ （すべての称 は神にあり」という言 で、神がすべてを供 する御方として感 するという意味です。食事の量が多かろうと少なかろうと、私たちは神に感 し、かれを えるのです。

“??????????????????????????????????????”??????11?6?

食物は日常生活における重要なものであり、それは私たちの活力を 持します。私たちはそれを得、 理し、食べることに非常に多くの を やします。神は一部の人々にはそれを多く与え、他方には非常に少量を与えます。この理由は私たちの理解を超えますが、私たちの 境は の一部であるということが分かっています。それは名誉や 辱を示すものではありません。神は、 が忍耐 くあり、またかれのもたらす祝福に して感 するのかを めるため、私たちを にかけられます。ムスリムは、一握りの食物であれ、 餐会で振舞われるような多量の食事であれ、同じように感 すべきであることを知っています。

言者ムハンマドの には、食 に神を称 し、祈 の言 を唱えることが含まれます。 言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）はこう言ったものです。「神に称 あれ。良き祝福に ち

た称 あれ。私たちの今食べたものは、私たちに不死をもたらしませんし、この食事が私たちの最 のものとなる（程の滋 をもたらし、食事を取らずとも むようになる） でもありません（が、あなたの恩 は常に私たちに降り注がれているのです）。主よ、私たちはあなたの恩 なしでいることも、それから切り されることも出来ないのです。[1]
また、彼はこのように言うこともありました。「神よ、私たちのためにそれを祝福し、それよりも良きものを私たちにお与えください。」[2]
また、 言者ムハンマドは、こう述べています。「神は、かれのしもべが何かを食べたことによってかれを えること、あるいは何かを んだことによってかれを えることを好まれる。」[3]
そして、それこそは真の信仰者が目 とすべき、神のご 悦を得るということなのです。

清 さは信仰の一部

イスラ ムは清 さを大きく します。礼 は、身体が清められた状 でなければ行ってはならず、 言者ムハンマドの 承には、心と身体の双方を清 に保つための助言が含まれます。イスラ ムは人生の包括的な生活 であり、神はクルア ンの中でこのように述べられています。

“ にアッラ は、悔悟して不断に（かれに） る者を でられ、また の者を される。”（クルア ン2：222）

このことからも、食 には 手を洗い、口をゆすぎ、可能であれば 磨きをすることが重要されるのです。

言者ムハンマドは、私たちが 礼的に清 な状 であるかどうかに わらず、食事の前 に手洗いをするよう忠告しています。水洗いで ませることは 容されますが、イスラ ム学者たちは石 や洗 液を用いることが好ましいとしています。また、食 には口をゆすぐことが推 されます。 言者ムハンマドがアッサフバという地域にいたとき、食事として麦粥しか いだすことが出来なかったにも わらず、食 には教友たちと口をゆすいでいます。[4]

イスラ ムは口の清 さにも重要性を置き、 言者ムハンマドは1400年以上も前、 を清 に保つことの重要性を教友たちに いているのです。彼は、ミスワ ク、またはスィワ クと呼ばれる天然 ブラシの使用を めています。それは をきれいにするミネラル分を持ち、 周病を予防し、バクテリアを し、息を爽やかにする成分を持つ小枝です。 言者ムハンマドはこう言っています。「スィワ クを使いなさい。それは口を 化し、主をご 悦させるものです。」「私のウンマ（国家）にとってそれが重荷となる恐れがなかったなら、私は各礼 前にスィワ クの使用を命じていたでしょう。[5]

良い助言は慈悲である

言者ムハンマドは、慈悲として世界に遣わされました。彼は神の唯一の宗教を完成させるため、そしていかに神をご 悦させるような崇 をすることが出来るかという、 践的手法を私たちに示しています。

“かれはあなたがたのため、善いことの き手である、かれはアッラ を信仰し、信者たちを信 する。またあなたがたの中の信仰する者のためには（アッラ からの）慈悲である。”（クルア ン9：61）

食事作法に する彼の助言は、彼の指 の中でも重要な位置を占めます。食事作法は、食事の前 と最中の行 が わりますが、 言者ムハンマドは水の み方についても教えています。彼は水を一 に み干すのではなく、3呼吸に分けて むよう忠告しています。また む には、唾液で水を さないよう、容器に息を吹き入れないように注意しています[6]。正しい作法は、イスラ ムという宗教における重要な部分なのです。

イスラ ムの信仰とは切り せない、良き 理と作法について むことによって、イスラ ムは完全な人生 であること、そしてムスリムの行うすべての行 は神をご 悦させ、 を得る 会であることを学ぶことが出来るはずです。 食のようなありふれた日常的行 であっても、神への崇 の 会であると なされているため、 食行 は、クルア ンにおける神の御言 、そして 言者ムハンマドの 承において、昇 したものとなったのです。

Footnotes:

1 サヒ フ ブハ リ

2 ティルミズィ

3 サヒ フ ムスリム

4 サヒ フ ブハ リ

5 サヒ フ ブハ リ 、サヒ フ ムスリム

6 サヒ フ ブハ リ

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/2101

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。